



# ロータス東海の ちいらしこ通信



2021年11月号

## 今月のちよりとこ話 「ペルークス」

1000年以上にわたつて信じられてきた『天動説』に対して、地球は宇宙の中心ではなく、太陽のまわりを回つているのでする『地動説』を唱えた天文学者がコペルニクスです。天動説を数学的に証明しようとすると、太陽も金星もその他の惑星も、ありえないほど複雑な動きをして、ようやく理論がなりたつ。暗くて広い部屋の隅々までいちばん効率よく照らすには、部屋の隅にランプを置いたり、あちこちに移動させたりせず、部屋の中央にランプを置くはずだ。これは宇宙でも同じで、宇宙の中心を地球ではなく、光星々の動きは天動説にあつたくなる。これに気付いたのが地動説の完成であり「太陽系」が誕生した瞬間です。地動説を証明するためには、詳細なデータに基づく事実に加え、大



きな勇気が必要でした。地動説は、世間の常識に逆らうだけでなく、神が大地の土台をいつまでも動かないように置いたという聖書の教えを覆すような暴論だったからです。コペルニクスや仲間たちが恐れたローマ教皇とカトリック教会が正式に「地動説」の正しさを認めたのは、1992年。日本でいえば、平成に入つてからのことです。アポロ11号が月面着陸し、スペースシャトルが打ち上げられ、宇宙ステーションが運用されてもなお、地動説は認められていなかつたのです。

日本で最初の「暖房機」は「火鉢」のようです。清少納言の「枕草子」にも記述がありま

す。「冬はつとめて」の所の、「炭持て渡るも、いとつきづきし」。なので、平安時代には火鉢はあつたという事ですね。

「炬燵(くたつ)」は、室町時代に登場しています。意外と早い時期からあつたのですね。

この時代の「こたつ」は、炭や薪(たきぎ)で火をおこした「囲炉裏(いろり)」の上に、「櫛(やぐら)」を組んで布団をかけていました(掘りごたつのような感じですかね)。電気こたつが日本で販売されたのは大正時代。でも、普及するのは1950年代になってからです。

今では当たり前に使つている様々な家電。初めて登場した時のことを覚えている方も多いでしょう。このコーナーではそんな家電の歴史やうんちくを紹介します。

1972年には、冷暖房が出来る「ルームエアコン」が登場します。1978年には、「石油ファンヒーター」が登場。1980年には「ガスファンヒーター」が登場。そして、「セントラルヒートイング」「床暖房」「浴室暖房」といったシステム商品が登場していくわけです。

少しそれますが、究極の暖房は、「お日さま」なのかな? です。



あなたにとつて「暖房」の思い出は何ですか? 来月は「時計」を取り上げます。お楽しみに。

## ロータス家電「くわくわ」 暖房

【頭の体操! 今月のなぞなぞ】①野球場にある宝石ってなんだ? ②穴のあきそうな天気ってなんだ? ③お尻が頭になっちゃう鳥ってなんだ? ④鰯段が気になる魚の卵ってなんだ? ⑤50セントの車の

